

2学期お礼

昨年に比べて、冷え込みが厳しいと感じる12月ですが、保護者の皆様、地域の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日中、日が照っているのにもかかわらず最高気温が0度という、びっくりするぐらい冷え込んだ日もありました。

さて、本年度の2学期が終わりました。振り返ってみると、この2学期も子どもたちはそれぞれの場面で自分の力を發揮し、成長を見せてくれました。それぞれの場面とは、学習の場面であったり、行事であったり、スポーツ少年団であったり、お手伝いであったりと、十人十色の場面で頑張りが見られたということです。心や体の成長のように時間をかけて少しづつ成長する部分と、1時間の学習ができるようになる目に見えて成長する部分と成長の仕方も色々とあります。でも、その一つ一つの成長を、私たち大人は見逃すことなく称賛し、励ましてあげることが大切だと思います。のために、子どもたちをよく観察し、一緒に何かに取り組んだり、会話をしたりするなどして心を通わせていく、そういういた教育・子育てをしていきたいものだと改めて感じるところです。

今年一年の皆様からの学校教育に対するご理解とご協力に心から感謝申し上げますとともに、新たな平成30年が皆様にとって素晴らしい一年になりますことを心よりご祈念申し上げます。

教育の名言

親野智可等（おやのちから）コラムより
「親の言葉で親子関係が決まる」

あるとき、夏休みの工作を親子で一緒につくるイベントがありました。そこで見た光景を紹介します。あるお父さんと男の子が、木でロボットをつくりました。そのお父さんの言葉は、「それじゃ、ダメダメ。もっと釘をよく見て打たなきやダメじやん。ほ~ら、曲がっちゃった。」「ちゃんと押さえてないからボンドがつかないじやん。もっと力を入れなきやくつつかないよ。」という感じです。すぐ近くで、別の

お父さんと男の子が木で飛行機をつくっていました。そのお父さんの言葉は、「おお。いいじやん。うまいうまい、いい感じ。」「うまく削れたねえ。いいぞ、いいぞ。ここをもう少し細くするとぴったりはまるよ。」という感じです。否定的な言い方が口癖になっている一人目のお父さんは、口にする言葉がすべて否定的です。それに比べて二人目のお父さんはかなり肯定的です。否定的な言葉で言われると、誰でも不愉快な気持ちになります。自分がとがめられて、否定されているように感じるからです。すると、素直な気持ちで受け入れることができなくなります。さらには、自分は相手によく思われていないと感じるようになります。親子の場合は、「自分はあまり大切にされていないのではないか？愛されていないのかも？」という疑いが出てきます。すると、さらに反発する気持ちが高まり、わざと反対のことをしたくなります。これが親子関係の崩壊につながっていきます。そして、このお父さんに限らず、ほとんどの親は自分の言葉に無自覚で、毎日わが子に否定的な言葉をぶつけてとがめています。これは非常にまずいことです。なぜなら、親子関係も含めてすべての人間関係は言葉によって決まるからです。ですから、否定的にとがめる言葉が出そうになったとき、それをそのまま口にするのではなく言い換えることが大事です。「がんばろうね」と言えばいいところを「がんばらなきやダメだよ」と言ってしまいます。「しっかり噛もう」でいいところを「しっかり噛まなきやダメだよ」と言ってしまいます。このような否定的な口癖を直すには、日ごろから心がけていることが大事です。そして、心がけていれば、だんだんできるようになります。

※ 明るい結果がイメージできるように
いくつか言い換えの実例を紹介したいと思います。一番いいのは、「〇〇すると□□のいいことがある」というように、明るい結果がイメージできる言い方です。二人目のお父さんの「ここをもう少し細くする

とぴったりはまるよ」もそうなっています。「勉強しなきゃ試験に受からないよ」→「がんばって勉強すれば試験に受かるよ」。「靴は靴箱に入れなきゃダメでしょ」→「靴箱に入れると玄関がすっきりするね」。このように言われれば、子どもは気持ちが明るくなつてやる気になります。また、日ごろからこののような言い方を心がけていると、ものの見方そのものが肯定的なプラス思考になっていきます。

※ 単純に促す

単純に促すような肯定的な言い方が一番いいのですが、いつもというわけにはいかないと思います。そういうときは「単純に促す」がお勧めです。つまり、「急がなきゃバスに乗れないよ」ではなく「急いで」

「急ごう」「急ぐよ」などのように単純に促します。とにかく、否定的にとがめなければいいのです。「おもちゃをしまわなきゃ、勉強できないでしょ」→「おもちゃしまって」。「もっと集中しなきゃ終わらないよ」→「集中、集中、がんばろう」。ただし、いくら単純に言っているつもりでも語調が怒った感じではとがめていることになりますので、明るく柔らかな語調で言ってください。

※ さらにひと工夫して促す

「単純に促す」にひと工夫するとさらに効果的です。いくつかありますが、一つ目は「ハードルを下げて促す」です。「宿題、今のうちに半分だけやっておこう」「手伝ってあげるから、一緒にやろう」のように言えば、取りかかりやすくなります。二つ目は「ユーモアで楽しく促す」です。「二倍速の早回しで着替えよう」「いつまでも寝てるとパパがくすぐり妖怪になってくすぐるよ」のように言えば、楽しい気持ちで素直にやれます。三つ目は「選ばせて促す」です。「食べてから勉強する？勉強してから食べる？」のように聞いて子どもに選ばせると、自分で選んだという責任が生じて、それが実行につながります。四つ目は「時間を示して促す」です。「はやく着替えなきゃダメでしょ」では漠然としていますが、「8時15分に着替え終わるよ」と明確に示せば時間を意識して動けるようになります。五つ目は「ゲーム化して促す」です。「はやく歩きなさい」ではなく「駐車場ま

で競走だ」と言えば、大いにその気になります。「はやく上手にたためるのはどっちかな？ママと競争」「片づけっこ競争、用意、ドン」「何分で着替えられるかな？時間計るよ。用意、ドン」なども使ってみましょう。最後に付けくわえます。親の言葉は子どもにうつりますので、親が静岡弁なら子どもも静岡弁になります。親が否定語弁なら子どもも否定語弁になり、親が肯定語弁なら子どもも肯定語弁になります。ですから、親の言葉を変える努力は待ったなしでお願いします。

子どもたちの健闘を称えます。

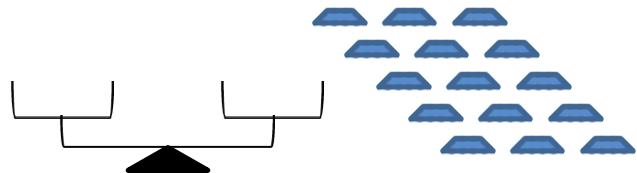
◇宮崎日日新聞「かりぼし往来」掲載

6年 ○○ ○○ さん

おまけ 頭の体操 ※正月用

問題1 (おもしろ問題)

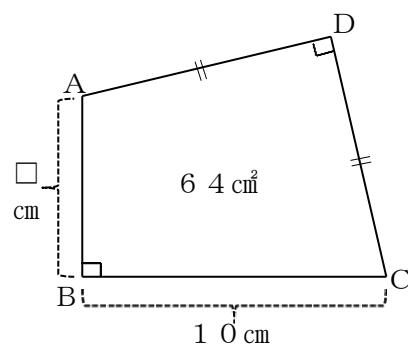
大きさも形も同じ金塊が15個あり、そのうち1個だけ偽物の少しだけ軽い金塊があります。天秤（てんびん）だけを使って、偽物を必ず見つけ出すには、天秤を最低何回使えばよいでしょう？



答え 回

問題2 (難関中学入試のための練習問題)

$AD = CD$ 、 $BC = 10\text{ cm}$ 、四角形ABC Dの面積が 64 cm^2 のとき、辺ABの長さは何cmですか？（角Bと角Dは直角）



答え ABの長さ cm

※ 今回の問題は、特別問題です。お正月のゆっくりした合間に、ご家族みんなで挑戦してみてはいかがでしょう？問題2は、解決方法がいくつかあるところが面白いところかも？答えがお分かりになられたら、学校まで連絡ください。